

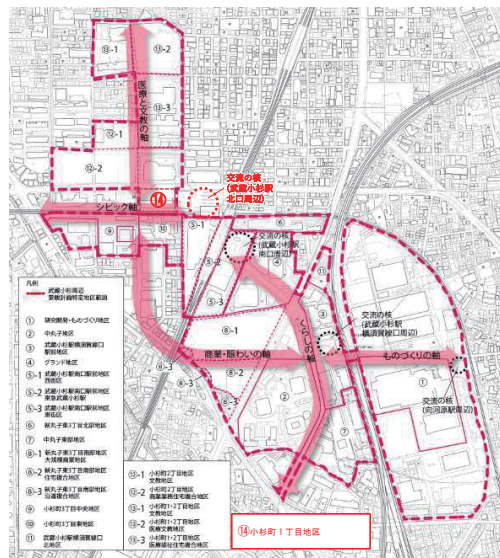
追加(案)

現行

4 武蔵小杉周辺地区

4 武蔵小杉周辺地区

景観計画特定地区の区域



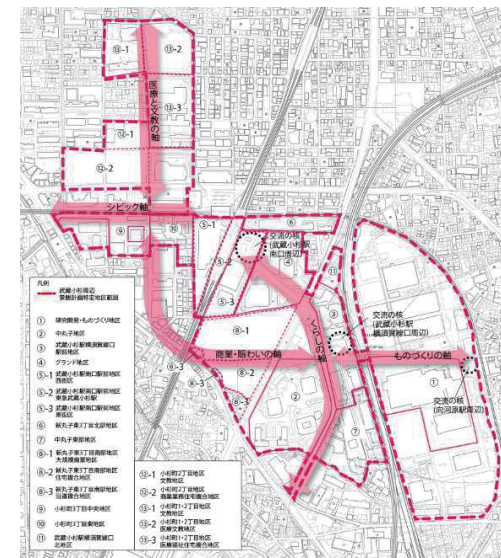
景観形成方針

- 1 基本目標
 - (1) 風格あるランドマークによる「拠点景観づくり」
各ランドマークの個性を活かしつつ、地区全体でまとまりを感じる建物景観づくりを行う。
 - (2) 駅を中心とする「にぎわい景観づくり」
独自性を活かしたにぎわいの演出を図りつつ、秩序ある商業景観づくりを行う。
 - (3) 快適で一体感のある公共的空間をめざす「沿道景観づくり」
ア 地区全体で統一感のあるサインやストリートファニチャー等を効果的に配置し、快適さと安心感を与える景観づくりを行う。
イ 安心感及び安全性を向上させるとともに、夜間の街を演出する、街区の特性に合わせた効果的な景観づくりを行う。
 - (4) 回遊性を高める「みどりと水の景観づくり」
みどりと水を効果的に配置し、連続感ある潤いと彩りの景観づくりを行う。

方針

- 2
 - (1) ものづくりの軸
ア 空間構成の考え方
(ア) 開放的で洗練された環境の中に、機能的かつ象徴的に配置された新たなものづくり産業拠点の形成
(イ) 武蔵小杉駅横須賀線口と向河原駅周辺の2つの交流の核を結ぶ都市的な歩行者軸の創出
(ウ) 研究者や市民の憩いの場となる広場空間の創出
イ デザインの考え方
(ア) デザインのキーワード
ものづくりの軸にかかるゾーンは、先端研究開発機能のイメージが有する「デジタル感」、「新しさ」や、ものづくりに必要な豊かな創造力がもたらす「軽快感」を想起させるデザインを施し、「端正で洗練された街なみ」をつくる。
(イ) 建築デザイン
a 高層部は、明るく洗練されたイメージを醸し出す無彩色の素材を中心に用い、軽快感のあるデザインとする。
b 低層部は、無彩色の素材を中心に、ガラス、金属等の素材を効果的に用い、端正なアイレベル景観を演出する。
c 高層部及び低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。
d 高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した風格あるデザインとする。
e 低層部は、ファサードに変化を持たせる等、ヒューマンスケールな設えとすると

景観計画特定地区の区域



景観形成方針

- 1 基本目標
 - (1) 風格あるランドマークによる「拠点景観づくり」
各ランドマークの個性を活かしつつ、地区全体でまとまりを感じる建物景観づくりを行う。
 - (2) 駅を中心とする「にぎわい景観づくり」
独自性を活かしたにぎわいの演出を図りつつ、秩序ある商業景観づくりを行う。
 - (3) 快適で一体感のある公共的空間をめざす「沿道景観づくり」
ア 地区全体で統一感のあるサインやストリートファニチャー等を効果的に配置し、快適さと安心感を与える景観づくりを行う。
イ 安心感及び安全性を向上させるとともに、夜間の街を演出する、街区の特性に合わせた効果的な景観づくりを行う。
 - (4) 回遊性を高める「みどりと水の景観づくり」
みどりと水を効果的に配置し、連続感ある潤いと彩りの景観づくりを行う。

方針

- 2
 - (1) ものづくりの軸
ア 空間構成の考え方
(ア) 開放的で洗練された環境の中に、機能的かつ象徴的に配置された新たなものづくり産業拠点の形成
(イ) 武蔵小杉駅横須賀線口と向河原駅周辺の2つの交流の核を結ぶ都市的な歩行者軸の創出
(ウ) 研究者や市民の憩いの場となる広場空間の創出
イ デザインの考え方
(ア) デザインのキーワード
ものづくりの軸にかかるゾーンは、先端研究開発機能のイメージが有する「デジタル感」、「新しさ」や、ものづくりに必要な豊かな創造力がもたらす「軽快感」を想起させるデザインを施し、「端正で洗練された街なみ」をつくる。
(イ) 建築デザイン
a 高層部は、明るく洗練されたイメージを醸し出す無彩色の素材を中心に用い、軽快感のあるデザインとする。
b 低層部は、無彩色の素材を中心に、ガラス、金属等の素材を効果的に用い、端正なアイレベル景観を演出する。
c 高層部及び低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。
d 高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した風格あるデザインとする。
e 低層部は、ファサードに変化を持たせる等、ヒューマンスケールな設えとすると

追加(案)		現行	
	ともに、開口部を大きく設ける等、内部の活動を感じることでできるデザインとなるよう配慮する。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、モノトーンカラーの舗装材をボーダー状又はドット状に敷設する等、規則的かつ直線的に用い、ハイテク感を演出するとともに、落ち着いた雰囲気を演出する。 (エ) 植栽デザイン a 通り空間の植栽は、幾何学的な配置とし、交流の核間を結ぶ歩行者軸の連続性を強調し、沿道景観としての一体感を持たせる。 b 敷地内の空地等の植栽は、樹木を規則的に配置し、幾何学的なデジタル感のあるランドスケープデザインとする。 (オ) 照明デザイン a 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は新しさと軽快感があるシンプルで直線的なデザインとする。 b 光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人々に対しても、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (2) くらしの軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 都市的居住空間の整備と、その足元に広がるヒューマンスケールな空間の形成 (イ) 武蔵小杉駅南口と横須賀線口の2つの交流の核を繋ぐうおいとゆりのある歩行者軸の創出 (ウ) 周辺街区と連絡する通り抜け通路やオープンスペースの確保 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード くらしの軸にかかるゾーンは、都市型住宅としての良好な住環境に求められる「温かみ」、「安らぎ」及び「落ち着き」を想起させるデザインを施し、地域の人々のふれあいを誘発する「温かみと安らぎのある街なみ」をつくる。 (イ) 建築デザイン a 高層部は、高明度かつ低彩度又は暖色系のアースカラーの素材を中心に用い、風格が感じられるデザインとする。 b 低層部は、深みのある暖色系のアースカラーの色彩を基調とし、石、木材等の自然の風合いを感じさせる素材を効果的に用いて、落ち着きと温かみのある景観を創出する。 c 高層部及び低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。 d 高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した風格あるデザインとする。 e 低層部は、ファサードに変化を持たせる等、ヒューマンスケールな設えとするとともに、商業業務施設等では開口部を大きく設ける等、内部の活動を感じることでできるデザインとなるよう配慮する。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、原則として、やさしさや落ち着きを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。 (エ) 植栽デザイン a 通り空間に面した空地等には、積極的に植栽を施し、街路樹と合わせて潤いのある街路景観を創出する。 b 敷地内の空地等については、多様な樹種をランダムに配植し、自然な森のようなナチュラル感のあるデザインとする。 (オ) 照明デザイン a 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、居住空間として、夜間の落ち着きと安らぎを演出するために、照明は丸みを帯びた優しく親しみやすいデザインとする。 b 光源は、夜遅く帰宅する人々に対しても、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (3) 商業・にぎわいの軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 広域拠点の玄関口にふさわしいにぎわいのある都市活動拠点である「交流の核」の一		ともに、開口部を大きく設ける等、内部の活動を感じることでできるデザインとなるよう配慮する。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、モノトーンカラーの舗装材をボーダー状又はドット状に敷設する等、規則的かつ直線的に用い、ハイテク感を演出するとともに、落ち着いた雰囲気を演出する。 (エ) 植栽デザイン a 通り空間の植栽は、幾何学的な配置とし、交流の核間を結ぶ歩行者軸の連続性を強調し、沿道景観としての一体感を持たせる。 b 敷地内の空地等の植栽は、樹木を規則的に配置し、幾何学的なデジタル感のあるランドスケープデザインとする。 (オ) 照明デザイン a 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は新しさと軽快感があるシンプルで直線的なデザインとする。 b 光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人々に対しても、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (2) くらしの軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 都市的居住空間の整備と、その足元に広がるヒューマンスケールな空間の形成 (イ) 武蔵小杉駅南口と横須賀線口の2つの交流の核を繋ぐうおいとゆりのある歩行者軸の創出 (ウ) 周辺街区と連絡する通り抜け通路やオープンスペースの確保 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード くらしの軸にかかるゾーンは、都市型住宅としての良好な住環境に求められる「温かみ」、「安らぎ」及び「落ち着き」を想起させるデザインを施し、地域の人々のふれあいを誘発する「温かみと安らぎのある街なみ」をつくる。 (イ) 建築デザイン a 高層部は、高明度かつ低彩度又は暖色系のアースカラーの素材を中心に用い、風格が感じられるデザインとする。 b 低層部は、深みのある暖色系のアースカラーの色彩を基調とし、石、木材等の自然の風合いを感じさせる素材を効果的に用いて、落ち着きと温かみのある景観を創出する。 c 高層部及び低層部のデザインを切り分け、メリハリのある建築物デザインとする。 d 高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した風格あるデザインとする。 e 低層部は、ファサードに変化を持たせる等、ヒューマンスケールな設えとするとともに、商業業務施設等では開口部を大きく設ける等、内部の活動を感じることでできるデザインとなるよう配慮する。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、原則として、やさしさや落ち着きを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。 (エ) 植栽デザイン a 通り空間に面した空地等には、積極的に植栽を施し、街路樹と合わせて潤いのある街路景観を創出する。 b 敷地内の空地等については、多様な樹種をランダムに配植し、自然な森のようなナチュラル感のあるデザインとする。 (オ) 照明デザイン a 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、居住空間として、夜間の落ち着きと安らぎを演出するために、照明は丸みを帯びた優しく親しみやすいデザインとする。 b 光源は、夜遅く帰宅する人々に対しても、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (3) 商業・にぎわいの軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 広域拠点の玄関口にふさわしいにぎわいのある都市活動拠点である「交流の核」の一

追加(案)			現行				
		翼を担う集客交流拠点の形成 (イ) 外に開かれた商業空間、アクティビティあふれる街の創造 (ウ) 地区住民や来街者を引き込むための歩行者空間と人々の休息の場にもなるオープンスペースの確保 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード 商業・にぎわいの軸にかかるゾーンは、大規模商業施設の集客力や、既存商店街における「界限性」を活かし、人々が出会うことによる「にぎわい」や「アクティビティ」、「活気」が感じられるデザインを施し、「にぎわいと快適さが感じられる街なみ」をつくる。 (イ) 建築デザイン a それぞれの個性が発揮された魅力的な街なみを形成する。 b 大規模商業施設については、武蔵小杉の新たな「街のゲート」をイメージさせるテーマ性を持ったにぎわいを感じさせるデザインとするとともに、歩行者を引き込む開放的な設えのエントランスや、建築物内の吹き抜け、通り抜け空間等を工夫する。 c 人々のコミュニケーションを創出する広場や通り抜けが可能な通路等を設け、にぎわいや楽しさを演出する印象的なデザインとするとともに、温かみのある街なみを演出するため、アースカラーを基調色としつつ、自然石、木材、土等の自然素材の風合いを感じさせる色彩によるデザインとする。 d 開口部を大きく設ける等、内部の活動を感じることでできるデザインとなるように配慮する。 e 大規模商業施設については、ヒューマンスケールな設えとするとともに、適切な開口部の配置等による表情豊かなファサードとなるよう工夫し、個性と風格ある街なみを形成するデザインとする。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、商業・にぎわいの軸の連続性に配慮し、自然を感じさせる素材とするとともに、アースカラーを基調とする。 (エ) 植栽デザイン a 建築物前面やオープンスペース等で可能な限り緑化等を行うことで、街なみや隣接する敷地との調和に配慮する。 b 大規模商業施設については、都市的空間のアクセントとして、スケール感を活かした、シンボリックな高木や群としての中高木等、自然を感じられるようなデザインとする等、歩行者に木陰を提供するとともに、空間を演出し、駅と住まいを結ぶ心地良い小路を提供する。 c 建築物は、壁面及び階段状のテラス、屋上を活用し、可能な限り緑化する。 (オ) 照明デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は、暗がり無くすよう配慮するとともに、夜のにぎわいを演出する温かみのある光源を用いる。 (4) シビック軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 多くの人々が集い、活発な交流が行われる開かれた街なみ空間の創出 (イ) 既成市街地の高度利用化に伴う都市機能の更新 (ウ) 高齢者や障がい者をはじめとした誰もが気軽に往来できる歩行者空間の創出 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード シビック軸にかかるゾーンは、行政施設が集積する地区であることから、様々な人々が集うことによる「交流」や、沿道の再開発によって形成される多様な用途の建築物が一定の調和を見せながら「共生」した「親しみと落ち着きのある街なみ」をつくる。 (イ) 建築デザイン a 人々が気軽に立ち寄りたくなるような開放感と親近感を演出するため、温かみのある落ち着いた色彩を基調とするとともに、内部の活動が見えるような開口部を多く設ける等の工夫をする。 b 低層部は、ヒューマンスケールを感じさせるとともに、開放感あるデザインとする。 c 高層部は、壁面が単調なイメージにならないようフレーム等で変化をつけるとともに、行政の中心地にふさわしい落ち着いたきのあるデザインとする。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、親しみと落ち着きを醸し出す低彩度の暖色系の色彩を基調とした舗装材を用いる。			翼を担う集客交流拠点の形成 (イ) 外に開かれた商業空間、アクティビティあふれる街の創造 (ウ) 地区住民や来街者を引き込むための歩行者空間と人々の休息の場にもなるオープンスペースの確保 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード 商業・にぎわいの軸にかかるゾーンは、大規模商業施設の集客力や、既存商店街における「界限性」を活かし、人々が出会うことによる「にぎわい」や「アクティビティ」、「活気」が感じられるデザインを施し、「にぎわいと快適さが感じられる街なみ」をつくる。 (イ) 建築デザイン a それぞれの個性が発揮された魅力的な街なみを形成する。 b 大規模商業施設については、武蔵小杉の新たな「街のゲート」をイメージさせるテーマ性を持ったにぎわいを感じさせるデザインとするとともに、歩行者を引き込む開放的な設えのエントランスや、建築物内の吹き抜け、通り抜け空間等を工夫する。 c 人々のコミュニケーションを創出する広場や通り抜けが可能な通路等を設け、にぎわいや楽しさを演出する印象的なデザインとするとともに、温かみのある街なみを演出するため、アースカラーを基調色としつつ、自然石、木材、土等の自然素材の風合いを感じさせる色彩によるデザインとする。 d 開口部を大きく設ける等、内部の活動を感じることでできるデザインとなるように配慮する。 e 大規模商業施設については、ヒューマンスケールな設えとするとともに、適切な開口部の配置等による表情豊かなファサードとなるよう工夫し、個性と風格ある街なみを形成するデザインとする。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、商業・にぎわいの軸の連続性に配慮し、自然を感じさせる素材とするとともに、アースカラーを基調とする。 (エ) 植栽デザイン a 建築物前面やオープンスペース等で可能な限り緑化等を行うことで、街なみや隣接する敷地との調和に配慮する。 b 大規模商業施設については、都市的空間のアクセントとして、スケール感を活かした、シンボリックな高木や群としての中高木等、自然を感じられるようなデザインとする等、歩行者に木陰を提供するとともに、空間を演出し、駅と住まいを結ぶ心地良い小路を提供する。 c 建築物は、壁面及び階段状のテラス、屋上を活用し、可能な限り緑化する。 (オ) 照明デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は、暗がり無くすよう配慮するとともに、夜のにぎわいを演出する温かみのある光源を用いる。 (4) シビック軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 多くの人々が集い、活発な交流が行われる開かれた街なみ空間の創出 (イ) 既成市街地の高度利用化に伴う都市機能の更新 (ウ) 高齢者や障がい者をはじめとした誰もが気軽に往来できる歩行者空間の創出 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード シビック軸にかかるゾーンは、行政施設が集積する地区であることから、様々な人々が集うことによる「交流」や、沿道の再開発によって形成される多様な用途の建築物が一定の調和を見せながら「共生」した「親しみと落ち着きのある街なみ」をつくる。 (イ) 建築デザイン a 人々が気軽に立ち寄りたくなるような開放感と親近感を演出するため、温かみのある落ち着いた色彩を基調とするとともに、内部の活動が見えるような開口部を多く設ける等の工夫をする。 b 低層部は、ヒューマンスケールを感じさせるとともに、開放感あるデザインとする。 c 高層部は、壁面が単調なイメージにならないようフレーム等で変化をつけるとともに、行政の中心地にふさわしい落ち着いたきのあるデザインとする。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、親しみと落ち着きを醸し出す低彩度の暖色系の色彩を基調とした舗装材を用いる。		

追加(案)		現行		
	(エ) 植栽デザイン - a 通り空間の限られたスペースを有効に活用し、多様な交流を生み出す、潤いや四季を感じさせる緑化空間を創出する。 - b 沿道敷地内の空地等は、通りのにぎわいを敷地内に引き込む等、開放感や公共空間との一体性に配慮しつつ、緑視効果が得られる設えとする。 (オ) 照明デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は、落ち着きと品格が感じられるシンプルで優しく親しみやすいデザインとし、光源は、色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (5) 医療と文教の軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 医療・文教・住宅等の各機能の相互の繋がりが感じられる交流空間の創出 (イ) 北口駅前の活気あるまちから、緑豊かな等々力緑地に向けたにぎわいと緑の連携性の創出 (ウ) 利用者に温かさ安らぎが感じられる潤いのある街なみ空間の創出 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード 医療と文教の軸にかかるゾーンは、医療・文教機能に求められる「安らぎ」「温かさ」「落ち着き」や、住宅・商業等を含めた各機能の「交流」を誘発するデザインを施し、『温かさや安らぎが感じられる潤いのある街なみ』をつくる。 (イ) 建築デザイン - a 高層部は、明るく温かみのある素材を用い、洗練されたデザインとする。 - b 低層部は、安らぎと温かさを感じさせる暖色系のアースカラーの色彩を基調とし、多様な交流を誘発するデザインを施す。 - c 高層部と低層部のデザインを切り分けるなどして、メリハリのある建築物デザインとする。 - d 高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した洗練されたデザインとする。 - e 低層部は、界隈性と周辺の街なみとの連続性に特に配慮するとともに、ヒューマンスケールな設えとするなど、にぎわいを創出し、交流の促進を図るデザインとする。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、安らぎや落ち着きを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。 (エ) 植栽デザイン - a 通り空間の植栽は、北口駅前や等々力緑地への連続性に配慮するとともに季節を感じさせる街路景観を創出する。 - b 沿道敷地内の空地等は、多様な交流や潤いを感じる緑の空間を創出する。 (オ) 照明デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等において照明は、安らぎや落ち着きが感じられるデザインとし、光源は、色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (6) 交流の核（武蔵小杉駅横須賀線口周辺） ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード - a 駅前広場に面する街区の「一体感」及び新しい駅前空間としての「都会性」を創出する。 - b 交通結節性の向上によって交流を促進し、駅前空間にふさわしい「にぎわい」と「交流」を創出する。 - c 「くらしの軸」と「ものづくりの軸」の結節点にふさわしい「温かさ」と「端正さ」を兼ね備えた空間とする。 (イ) 駅前広場のデザイン - a バスシェルターや駐輪場、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。 - b 都市の顔としての象徴性を演出し、「ものづくりの軸」との連続性に配慮したモノトーンを基調とした舗装材を用いる。 - c 街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。			(エ) 植栽デザイン - a 通り空間の限られたスペースを有効に活用し、多様な交流を生み出す、潤いや四季を感じさせる緑化空間を創出する。 - b 沿道敷地内の空地等は、通りのにぎわいを敷地内に引き込む等、開放感や公共空間との一体性に配慮しつつ、緑視効果が得られる設えとする。 (オ) 照明デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、照明は、落ち着きと品格が感じられるシンプルで優しく親しみやすいデザインとし、光源は、色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (5) 医療と文教の軸 ア 空間構成の考え方 (ア) 医療・文教・住宅等の各機能の相互の繋がりが感じられる交流空間の創出 (イ) 北口駅前の活気あるまちから、緑豊かな等々力緑地に向けたにぎわいと緑の連携性の創出 (ウ) 利用者に温かさ安らぎが感じられる潤いのある街なみ空間の創出 イ デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード 医療と文教の軸にかかるゾーンは、医療・文教機能に求められる「安らぎ」「温かさ」「落ち着き」や、住宅・商業等を含めた各機能の「交流」を誘発するデザインを施し、『温かさや安らぎが感じられる潤いのある街なみ』をつくる。 (イ) 建築デザイン - a 高層部は、明るく温かみのある素材を用い、洗練されたデザインとする。 - b 低層部は、安らぎと温かさを感じさせる暖色系のアースカラーの色彩を基調とし、多様な交流を誘発するデザインを施す。 - c 高層部と低層部のデザインを切り分けるなどして、メリハリのある建築物デザインとする。 - d 高層部は、遠景及び中景からのランドマーク性を強調した洗練されたデザインとする。 - e 低層部は、界隈性と周辺の街なみとの連続性に特に配慮するとともに、ヒューマンスケールな設えとするなど、にぎわいを創出し、交流の促進を図るデザインとする。 (ウ) 舗装デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等においては、安らぎや落ち着きを演出する暖色系のアースカラーを基調とした自然の風合いを感じさせる舗装材を用いる。 (エ) 植栽デザイン - a 通り空間の植栽は、北口駅前や等々力緑地への連続性に配慮するとともに季節を感じさせる街路景観を創出する。 - b 沿道敷地内の空地等は、多様な交流や潤いを感じる緑の空間を創出する。 (オ) 照明デザイン 通り空間及び沿道の敷地内の空地等において照明は、安らぎや落ち着きが感じられるデザインとし、光源は、色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (6) 交流の核（武蔵小杉駅横須賀線口周辺） ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード - a 駅前広場に面する街区の「一体感」及び新しい駅前空間としての「都会性」を創出する。 - b 交通結節性の向上によって交流を促進し、駅前空間にふさわしい「にぎわい」と「交流」を創出する。 - c 「くらしの軸」と「ものづくりの軸」の結節点にふさわしい「温かさ」と「端正さ」を兼ね備えた空間とする。 (イ) 駅前広場のデザイン - a バスシェルターや駐輪場、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。 - b 都市の顔としての象徴性を演出し、「ものづくりの軸」との連続性に配慮したモノトーンを基調とした舗装材を用いる。 - c 街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。

追加(案)			現行		
		d 照明は、都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。 e 照明の光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人等にも、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (7) 交流の核 (向河原駅周辺) ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード a 新しい駅前広場周辺にふさわしい「一体感」と「都会性」を創出する。 b 先端研究開発をイメージさせる「開放的」で「ダイナミック」な景観を創出する。 c 都市の顔、「ものづくりの軸」を受け止める場所にふさわしい洗練さと端正さが感じられる空間を創出する。 (イ) 駅前広場のデザイン a バスシェルターや駐輪場、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。 b 都市の顔としての象徴性を演出し、「ものづくりの軸」との連続性に配慮したモノトーンを基調とした舗装材を用いる。 c 街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。 d 照明は、都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。 e 照明の光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人等にも、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (8) 交流の核 (武蔵小杉駅南口周辺) ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード a 東急線武蔵小杉駅周辺の「一体感」及び街の玄関口としての「象徴性」を創出する。 b 周辺の商業施設を中心とした、駅前空間としての「にぎわい」と「楽しさ」を創出する。 c 都市の顔、「くらしの軸」を受け止める場所にふさわしい「洗練さ」と「温かさ」を兼ね備えた空間とする。 (イ) 駅前広場のデザイン a バスシェルターや地下駐輪場出入口、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。 b 都市の顔としての象徴性を演出するモノトーンを基調とした舗装材を用いる。 c 出入口交差点歩道部は、駅前広場と舗装材を統一し、駅前広場の広がりを感じられるデザインとする。 d 街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。 e 照明は、都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。 f 照明の光源は、「くらしの軸」との連続性を考慮し、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (9) 交流の核 (武蔵小杉駅北口周辺) ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード a 駅及び駅前空間とまちのつながりを創出する、広域拠点にふさわしい景観を形成する。 b 周辺建物と「調和」を図るとともに、「洗練」されたデザインによる街なみを形成する。 c ペDESTリアンデッキレベルに面して店舗を配置し、周辺の「にぎわい」と「交流」の空間とつながることで連続した空間を創出する。			d 照明は、都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。 e 照明の光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人等にも、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (7) 交流の核 (向河原駅周辺) ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード a 新しい駅前広場周辺にふさわしい「一体感」と「都会性」を創出する。 b 先端研究開発をイメージさせる「開放的」で「ダイナミック」な景観を創出する。 c 都市の顔、「ものづくりの軸」を受け止める場所にふさわしい洗練さと端正さが感じられる空間を創出する。 (イ) 駅前広場のデザイン a バスシェルターや駐輪場、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。 b 都市の顔としての象徴性を演出し、「ものづくりの軸」との連続性に配慮したモノトーンを基調とした舗装材を用いる。 c 街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。 d 照明は、都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。 e 照明の光源は、夜遅くまで研究開発に勤しむ人等にも、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。 (8) 交流の核 (武蔵小杉駅南口周辺) ア デザインの考え方 (ア) デザインのキーワード a 東急線武蔵小杉駅周辺の「一体感」及び街の玄関口としての「象徴性」を創出する。 b 周辺の商業施設を中心とした、駅前空間としての「にぎわい」と「楽しさ」を創出する。 c 都市の顔、「くらしの軸」を受け止める場所にふさわしい「洗練さ」と「温かさ」を兼ね備えた空間とする。 (イ) 駅前広場のデザイン a バスシェルターや地下駐輪場出入口、ストリートファニチャー等の附帯施設は、都市の顔にふさわしく、都会的で軽快さを感じさせるよう金属やガラス等の素材を中心に、シンプルで洗練されたデザインとする。 b 都市の顔としての象徴性を演出するモノトーンを基調とした舗装材を用いる。 c 出入口交差点歩道部は、駅前広場と舗装材を統一し、駅前広場の広がりを感じられるデザインとする。 d 街の玄関口の潤いの演出のために積極的に緑化を推進しつつ、開放感を確保したデザインとする。 e 照明は、都会性を演出するシンプルで直線的なデザインとし、色彩はダークグレー等駅前広場の附帯施設との調和に配慮する。 f 照明の光源は、「くらしの軸」との連続性を考慮し、安心感を与えることができる色温度の低い温かみのあるものを用いる。

追加(案)		現行	
景観形成基準	1 4 小杉町1丁目地区における景観形成の考え方及び行為の制限		
	景観形成の考え方	(1) 駅前空間と一体となったにぎわい・交流空間の創出 (2) 武蔵小杉駅北口の回遊性を高める、安全で快適な歩行者空間の形成 (3) 等々力緑地へ向かう武蔵小杉駅北口周辺の玄関口にふさわしい緑の空間の創出 (4) 「医療と文教の軸」との連続性に配慮した、温かさや安らぎが感じられる潤いのある街なみの形成	
	行為の制限(建築物又は工作物の形態意匠の制限)	(1) 建築物の配置や歩行者動線は、武蔵小杉駅北口の歩行者ネットワークや回遊性を踏まえてデザインする。 (2) 歩行者の目線でまとまりが感じられる街なみを創出するため、低層部と高層部はデザインを切り替える。 (3) 低層部は、多様な人々にとって快適な空間となるよう、ヒューマンスケールに配慮したデザインになるよう工夫する。 (4) 高層部は、空になじむよう落ち着いたデザインにする。 (5) 建築物の壁面が長大となる場合は、スリットを設けるか、又は壁面のデザインを分節化する等、圧迫感を軽減させる工夫をする。 (6) 建築物の外観に使用する素材は、経年変化やメンテナンス等を考慮し、良好な景観を持続させる質の高いものを選定する。 (7) 建築物付帯施設又は屋外設備類は、設置位置、垣、柵等の囲いの形態等に配慮して、周辺から直接見えにくくするとともに、建築物と一体的にデザインする。 (8) 窓のデザインは、壁面全体のバランスを考え、単調又は乱雑にならないよう配置、形状及び割り付けを工夫する。 (9) 商業又は業務機能を有する建築物では、通りや駅前空間、ペDESTリアンデッキと接する部分において、建築物のデザインを工夫し、歩行者を引き込むようになぎわいのある空間を創出するとともに、エントランス部はガラス等を用いた開放的なデザインとする。 (10) ペDESTリアンデッキの下は、できるだけ開放性を確保し、快適な環境になるよう工夫する。 (11) 日除け幕等を設置する場合は、窓全面を覆ってはならず、その色彩は、原則として落ち着いたものとする。 (12) JR 南武線の高架に近接している南面低層部では、鉄道からの車窓景観を意識し、緑のしつらえや建物内部のにぎわいを見せる等により、単調にならないよう魅力的なデザインとする。	
	外壁の色彩に関する制限	(1) 「医療と文教の軸」沿いに立地することから、暖色系のアースカラーを基調とした温かみのある街なみとなるよう配色を行う。 (2) 建築物等の外壁の色彩は、次に掲げる範囲内とする。 ア 高層部(地上30メートルを超える部分) (ア) マンセル値で色相0 Rから4. 9 Y Rの範囲であり、明度8以上かつ彩度1以下又は明度5以上8未満かつ彩度2以下 (イ) マンセル値で色相5 Y Rから4. 9 Yの範囲であり、明度4以上かつ彩度2以下 (ウ) マンセル値で色相5 Yから9. 9 Yの範囲であり、明度8以上かつ彩度1以下又は明度5以上8未満かつ彩度2以下 イ 低層部(地上30メートル以下の部分) (ア) マンセル値で色相0 Rから9. 9 Rの範囲であり、明度8以上かつ彩度1以下又は明度3以上8未満かつ彩度2以下 (イ) マンセル値で色相0 Y Rから4. 9 Y Rの範囲であり、明度5以上かつ彩度2以下又は明度3以上5未満かつ彩度4以下 (ウ) マンセル値で色相5 Y Rから4. 9 Yの範囲であり、明度8以上かつ彩度2以下又は明度3以上8未満かつ彩度4以下 (エ) マンセル値で色相5 Yから9. 9 Yの範囲であり、明度8以上かつ彩度1以下又は明度3以上8未満かつ彩度2以下 (3) 建築物等の壁面の20パーセントを超えない範囲で使用するアクセントカラーについては、前号の基準は適用しない。ただし、アクセントカラーで構成されたまとまりのある面とみなせる部分の面積については、壁面の5%を超えない範囲とする。 (4) 表面に着色していない自然石、木材、土壁、ガラス等の素材自体が持つ色彩は、外壁の色彩の基準によらない。	
	広	(1) 広場等は、利用者の交流を誘発するデザインを施し、温かさやにぎわいのある空間づ	

追加(案)		現行								
	<table><tr><td>場・通路デザイン</td><td> くりをする。 (2) 通りやペDESTリアンデッキは、潤いやにぎわいを感じながら、安全で快適に歩くことができる空間にする。 (3) 通り抜けが可能な通路や小広場等を設け、回遊性を確保するとともに、奥行きや立体感のある歩行者空間にする。 (4) 敷地内の舗装の仕上げは、周辺道路の歩道等と調和させるとともに、道路との境界には塀及び柵を設けないこととする。ただし、安全上やむを得ない場合はこの限りでない。 (5) ペDESTリアンデッキの接続部において、素材やパターンが異なる場合には、境界を調和させるデザインとする。 (6) 敷地西側は、「医療と文教の軸」として連続性を持たせたデザインとする。 (7) 車止め、街灯、誘導サイン、ベンチその他の工作物は、シンプルで洗練されたデザインとする。 (8) 車止め等は、原則として中・低明度の色彩又は自然素材とし、周囲と調和させる。 </td></tr><tr><td>照明のデザイン</td><td> (1) 照明は、省エネルギー効果の高い物の使用に努めるとともに、原則として過度に点滅する照明は使用しない。 (2) 建築物の外構に設置される屋外照明で道路から視認されるもの及び地上階または屋外テラスに面する室内において使用する照明は、演色性が高く、かつ、温かみのある光源を基調とする。ただし、にぎわいを創出する良質な照明は、この限りでない。 (3) 照明は、光源のまぶしさを考慮して、光源が直接見えないようにする。また、明るさの確保及び外構デザインとの調和に配慮する。 (4) 夜間の景観を演出するために効果的に設置する。 (5) フットライトやポールライト等を用いて、安全に歩行できる明るさを確保した上で、街のにぎわいを演出する。 </td></tr><tr><td>みどりのデザイン</td><td> (1) 等々力緑地へ向かう武蔵小杉駅北口駅前として、地域の特性を踏まえた多様な樹種を活用し、平面的・立体的に広がりのある緑の空間を創出する。 (2) 植栽は、「医療と文教の軸」の連続性に配慮し、季節を感じさせる街路景観を創出する。 (3) 多様な交流を育み潤いのある景観を形成するような緑化の空間を創出する。 (4) ペDESTリアンデッキ、接道部、オープンスペース、庇上部または壁面等、様々な場所を活用し効果的に緑化する。 (5) 緑の維持管理を適切に行う。 (6) 地域と協働でみどりを育てる仕組みづくりに努める。 </td></tr><tr><td>適用除外</td><td> 次のいずれかに該当する場合で、景観形成方針と合致しており、かつ、周辺の景観形成に支障がないと認められる場合は、建築物又は工作物の形態意匠の制限を適用しないものとする。 (1) 法令によって規定された表示方法によって表示し、又は設置することが義務付けられている場合 (2) 一般の歩行者が、道路、公開空地等から容易に望めない部分の場合 (3) その他市長が認める場合 </td></tr></table>	場・通路デザイン	くりをする。 (2) 通りやペDESTリアンデッキは、潤いやにぎわいを感じながら、安全で快適に歩くことができる空間にする。 (3) 通り抜けが可能な通路や小広場等を設け、回遊性を確保するとともに、奥行きや立体感のある歩行者空間にする。 (4) 敷地内の舗装の仕上げは、周辺道路の歩道等と調和させるとともに、道路との境界には塀及び柵を設けないこととする。ただし、安全上やむを得ない場合はこの限りでない。 (5) ペDESTリアンデッキの接続部において、素材やパターンが異なる場合には、境界を調和させるデザインとする。 (6) 敷地西側は、「医療と文教の軸」として連続性を持たせたデザインとする。 (7) 車止め、街灯、誘導サイン、ベンチその他の工作物は、シンプルで洗練されたデザインとする。 (8) 車止め等は、原則として中・低明度の色彩又は自然素材とし、周囲と調和させる。	照明のデザイン	(1) 照明は、省エネルギー効果の高い物の使用に努めるとともに、原則として過度に点滅する照明は使用しない。 (2) 建築物の外構に設置される屋外照明で道路から視認されるもの及び地上階または屋外テラスに面する室内において使用する照明は、演色性が高く、かつ、温かみのある光源を基調とする。ただし、にぎわいを創出する良質な照明は、この限りでない。 (3) 照明は、光源のまぶしさを考慮して、光源が直接見えないようにする。また、明るさの確保及び外構デザインとの調和に配慮する。 (4) 夜間の景観を演出するために効果的に設置する。 (5) フットライトやポールライト等を用いて、安全に歩行できる明るさを確保した上で、街のにぎわいを演出する。	みどりのデザイン	(1) 等々力緑地へ向かう武蔵小杉駅北口駅前として、地域の特性を踏まえた多様な樹種を活用し、平面的・立体的に広がりのある緑の空間を創出する。 (2) 植栽は、「医療と文教の軸」の連続性に配慮し、季節を感じさせる街路景観を創出する。 (3) 多様な交流を育み潤いのある景観を形成するような緑化の空間を創出する。 (4) ペDESTリアンデッキ、接道部、オープンスペース、庇上部または壁面等、様々な場所を活用し効果的に緑化する。 (5) 緑の維持管理を適切に行う。 (6) 地域と協働でみどりを育てる仕組みづくりに努める。	適用除外	次のいずれかに該当する場合で、景観形成方針と合致しており、かつ、周辺の景観形成に支障がないと認められる場合は、建築物又は工作物の形態意匠の制限を適用しないものとする。 (1) 法令によって規定された表示方法によって表示し、又は設置することが義務付けられている場合 (2) 一般の歩行者が、道路、公開空地等から容易に望めない部分の場合 (3) その他市長が認める場合	
場・通路デザイン	くりをする。 (2) 通りやペDESTリアンデッキは、潤いやにぎわいを感じながら、安全で快適に歩くことができる空間にする。 (3) 通り抜けが可能な通路や小広場等を設け、回遊性を確保するとともに、奥行きや立体感のある歩行者空間にする。 (4) 敷地内の舗装の仕上げは、周辺道路の歩道等と調和させるとともに、道路との境界には塀及び柵を設けないこととする。ただし、安全上やむを得ない場合はこの限りでない。 (5) ペDESTリアンデッキの接続部において、素材やパターンが異なる場合には、境界を調和させるデザインとする。 (6) 敷地西側は、「医療と文教の軸」として連続性を持たせたデザインとする。 (7) 車止め、街灯、誘導サイン、ベンチその他の工作物は、シンプルで洗練されたデザインとする。 (8) 車止め等は、原則として中・低明度の色彩又は自然素材とし、周囲と調和させる。									
照明のデザイン	(1) 照明は、省エネルギー効果の高い物の使用に努めるとともに、原則として過度に点滅する照明は使用しない。 (2) 建築物の外構に設置される屋外照明で道路から視認されるもの及び地上階または屋外テラスに面する室内において使用する照明は、演色性が高く、かつ、温かみのある光源を基調とする。ただし、にぎわいを創出する良質な照明は、この限りでない。 (3) 照明は、光源のまぶしさを考慮して、光源が直接見えないようにする。また、明るさの確保及び外構デザインとの調和に配慮する。 (4) 夜間の景観を演出するために効果的に設置する。 (5) フットライトやポールライト等を用いて、安全に歩行できる明るさを確保した上で、街のにぎわいを演出する。									
みどりのデザイン	(1) 等々力緑地へ向かう武蔵小杉駅北口駅前として、地域の特性を踏まえた多様な樹種を活用し、平面的・立体的に広がりのある緑の空間を創出する。 (2) 植栽は、「医療と文教の軸」の連続性に配慮し、季節を感じさせる街路景観を創出する。 (3) 多様な交流を育み潤いのある景観を形成するような緑化の空間を創出する。 (4) ペDESTリアンデッキ、接道部、オープンスペース、庇上部または壁面等、様々な場所を活用し効果的に緑化する。 (5) 緑の維持管理を適切に行う。 (6) 地域と協働でみどりを育てる仕組みづくりに努める。									
適用除外	次のいずれかに該当する場合で、景観形成方針と合致しており、かつ、周辺の景観形成に支障がないと認められる場合は、建築物又は工作物の形態意匠の制限を適用しないものとする。 (1) 法令によって規定された表示方法によって表示し、又は設置することが義務付けられている場合 (2) 一般の歩行者が、道路、公開空地等から容易に望めない部分の場合 (3) その他市長が認める場合									